

# ストラブ・分岐カップリング GTタイプ

## 施工要領書

平成28年 7月版

適用範囲

1. 給水工事の仮設配管の接合にストラブ・グリップ-GT(分岐)タイプを使用する際の施工要領に適用する。
2. 適用管サイズは、50A～150A。
3. 適用管種は、配管用炭素鋼鋼管（SGP管・スケジュール管）、ステンレス鋼管（Su管・スケジュール管）内面ライニング鋼管（ポリエチレン・硬質塩化ビニル）、硬質塩化ビニル管（VP・HIVP・HTVP）

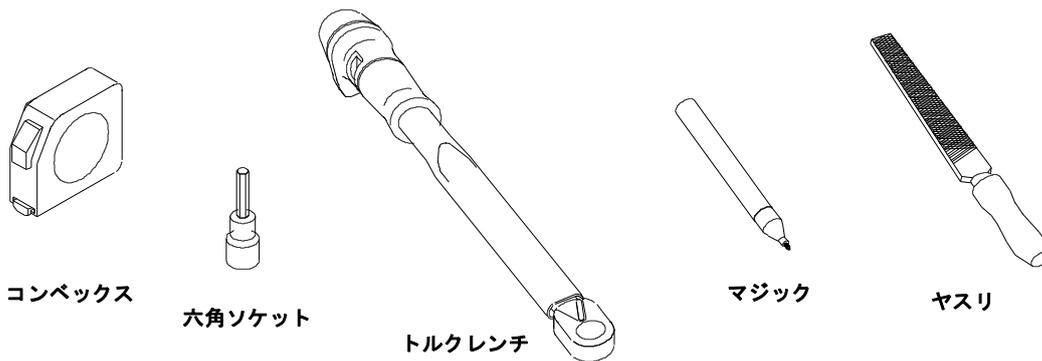
※外面ライニング鋼管（PD・VD）を使用する際は、カップリングを配置する箇所の被覆を除去する必要があります。

※硬質塩化ビニル管のVU管には、使用できません

管サイズと型式番号

呼び径	型式番号	呼び径	型式番号
50A	GT-50E	100A	GT-100E
65A	GT-65E	125A	GT-125E
80A	GT-80E	150A	GT-150E

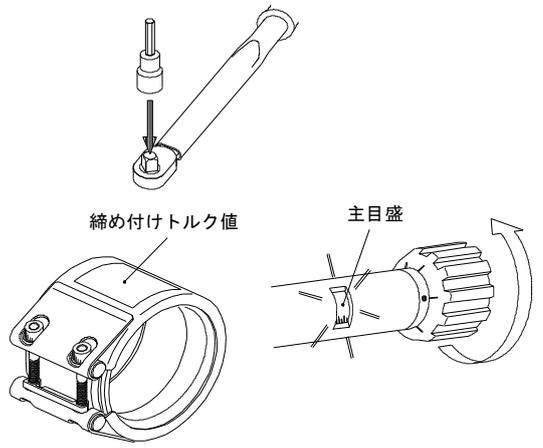
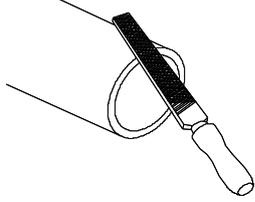
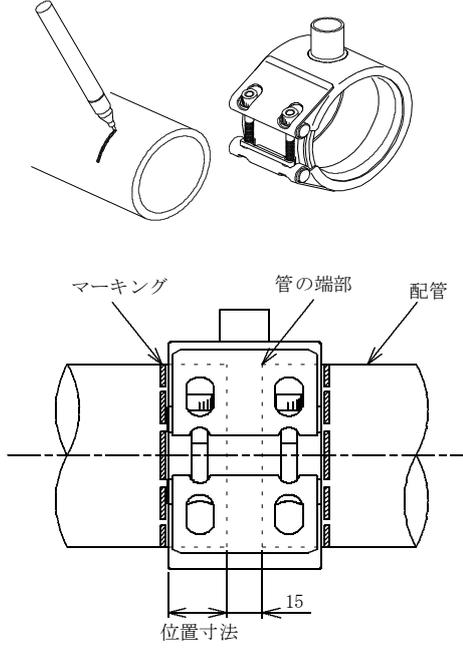
使用工具 （取り付けに必要な道具類／専用トルクレンチとソケットの組み合わせ）



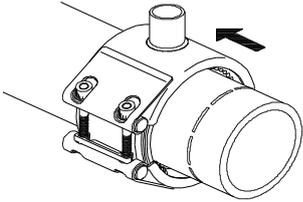
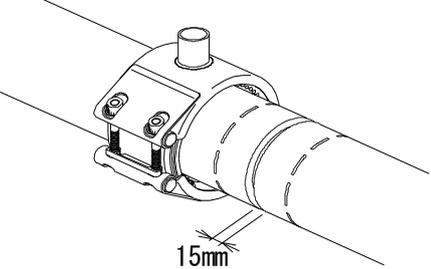
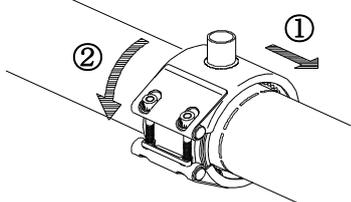
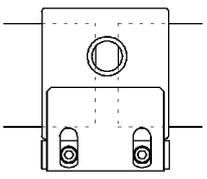
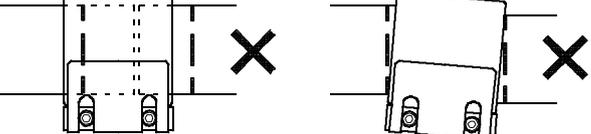
専用トルクレンチとソケットの組み合わせ

型式番号	組み合わせ①		組み合わせ②	
	トルクレンチ	六角ソケット	トルクレンチ	六角ソケット
GT-50	QL25N-MH	9.5×6	QL50N-MH	9.5×6
GT-65/80/100	QL50N-MH	9.5×8	QL100N-MH	12.7×8
GT-125/150	QL100N-MH	12.7×12	QL200N-MH	12.7×12

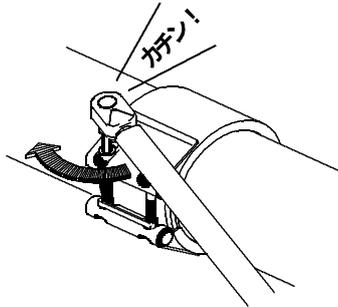
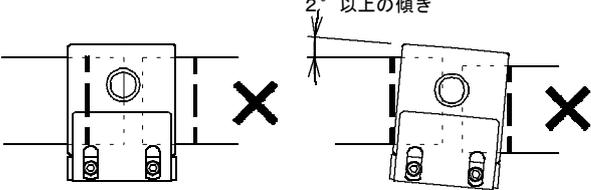
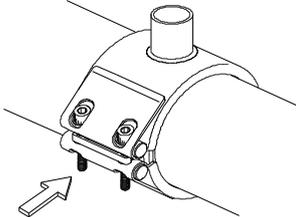
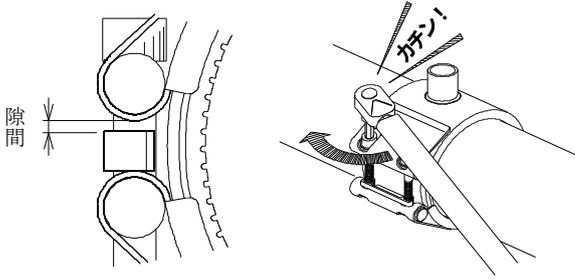
G T タイプの作業手順

区分	作業項目	作業内容	要 点								
準備作業	工具の用意	トルクレンチにソケットを取り付ける。  カップリング本体のラベルに表示されている「締め付けトルク値」と、トルクレンチの主目盛を合わせます。   塩ビ管 (VU管は使用不可) に使用する場合は、ケーシングがスペーサーに密着するまで締め込んで下さい。	 <p>締め付けトルク値</p> <p>主目盛</p>								
	パイプの清掃	切断後のパイプ管端の外面のバリ等はヤスリで除去する。  管の外面にキズや汚れがある場合は滑らかにする。 (改修工事の場合は特に注意して下さい。)	外周のバリはゴムスリーブを傷つける恐れがあります。  								
本作業	マーキング	パイプにマーキングをし、継手の取付け位置を決めます。  隙間 = 15mm を考慮したマーキングする位置は下記の通りです。  <table border="1" data-bbox="438 1657 805 1803"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>位置寸法 mm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50A</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>65/80/100A</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>125/150A</td> <td>48</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	位置寸法 mm	50A	32	65/80/100A	40	125/150A	48	GTタイプはGタイプとは異なり、分岐口から取水するために、配管端部に約15mmの隙間が必要になります。   <p>マーキング</p> <p>管の端部</p> <p>配管</p> <p>位置寸法 15</p>
呼び径	位置寸法 mm										
50A	32										
65/80/100A	40										
125/150A	48										

G T タイプの作業手順

区分	作業項目	作業内容	要 点
本	カップリングの差し込み	固定したパイプの一端部にカップリングを仮に差し込む。	<p>カップリングのボルト等はそのままの状態です。 (ボルトを緩める必要はありません。)</p> 
	パイプの配置	もう一方のパイプを所定の位置に配置し、支持金具で固定する。この時、パイプとパイプの隙間を15mm空けて配置する。	<p>軸芯を合わせ、なるべく偏心しない様に固定します。</p> 
作	カップリングのセット	<p>マーキングの位置までカップリングを横移動させます。①</p> <p>カップリングのボルト締め付け作業が最もやり易い位置にカップリングを回す。②</p> <p>取水口から中を覗き、管の隙間が15mm程度開いているか確認・調整をする。</p>	 <p> グリップの歯でパイプに傷が付かないように注意して下さい。</p> 
業	仮締め作業	<p>トルクレンチを使用してカップリングのボルトを仮締めし、カップリングが動かない程度に固定する。</p> <p>ここで、マーキングの位置にカップリングが取り付けられており且つ管軸に対し傾き(±2°以上)が生じていないかを確認する。</p>	 <p>正常でない場合はボルト緩めて取り付け直しをして下さい。</p>

G T タイプの作業手順

区分	作業項目	作業内容	要 点
本 作 業	本締め作業	<p>目安としては、片側のボルトを3回転程度締め付けたら、もう一方のボルトに移り、同様に締め込みます。この作業を繰り返します。</p> <p>設定したトルク値になると、トルクレンチが「カチン」と合図します。</p> <p>もう片側も合図があるまで締め込みます。この作業を <b>5～6回繰り返し行い</b>、左右のボルトが均等に所定のトルク値になるまで締め込みます。</p>	 <p>⚠ ボルトが片締めにならないように十分にご注意下さい。</p>
確 認	最終確認	<p>マーキングの位置にカップリングが取り付けられており、且つ管軸に対し傾き(±2°以上)が生じていないかを確認する。</p>	 <p>上図のような場合は一度外して、取り付け直して下さい</p> <p>⚠ カップリングが正しく施工されていないと事故の原因になる場合があります。</p>
作 業		<p>【通常の場合】 ボルトの締め忘れがないか確認する。</p> <p>締め確認スペーサーを目視して確認する。</p>  <p>【管の芯ズレ・曲がりの場合】 管の芯ズレや曲がりがあり、上記の再確認を行っても隙間が生じてしまう場合は、性能的に問題ありませんので作業を終了して下さい。</p>	 <p>上図のようにスペーサーの間に隙間がある場合は、再度トルクレンチを使用して、所定のトルク値で増し締めを行って下さい。</p>

パイプの支持方法

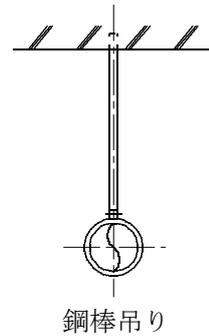
原則として国土交通省監修の「公共建築工事標準仕様書」に準拠します。

1. 横走り配管：

【鋼棒吊り】

天井および床からの鋼棒吊りの支持間隔は管のサイズによって異なります。詳細は下表の通りです。

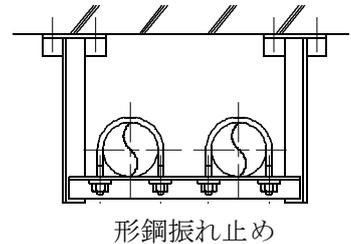
管の種類	呼び径	支持間隔
鋼管・ライニング鋼管・ステンレス鋼管	50～100	2m以下
硬質塩化ビニル管 VP・HI・HT	125～150	3m以下
硬質塩化ビニル管 VP・HI・HT	50～80	1m以下
硬質塩化ビニル管 VP・HI・HT	100～150	2m以下



【振れ止め支持】

鋼棒吊り以外に形鋼振れ止めも適所に必要となります。支持間隔は管の種類によって異なり、詳細は下表の通りです。

管の種類	呼び径	支持間隔
鋼管・ライニング鋼管	50	不 要
ステンレス鋼管	65～100	8m以下
硬質塩化ビニル管	125～150	12m以下
硬質塩化ビニル管 VP・HI・HT	50～100	8m以下
硬質塩化ビニル管 VP・HI・HT	125～150	12m以下



2. 路肩ころばし配管の場合

特別な支持や固定は必要有りません。

基準締付けトルク値

単位： N-m 【kgf-cm】

型式番号	締付けトルク値
GT-50E	15 【150】
GT-65/80/100E	35 【350】
GT-125/150E	90 【900】